

# 北部医療センターあり方検討の状況

2022年3月9日(水曜日)

京都府立医科大学  
附属北部医療センター  
病院長  
落合登志哉

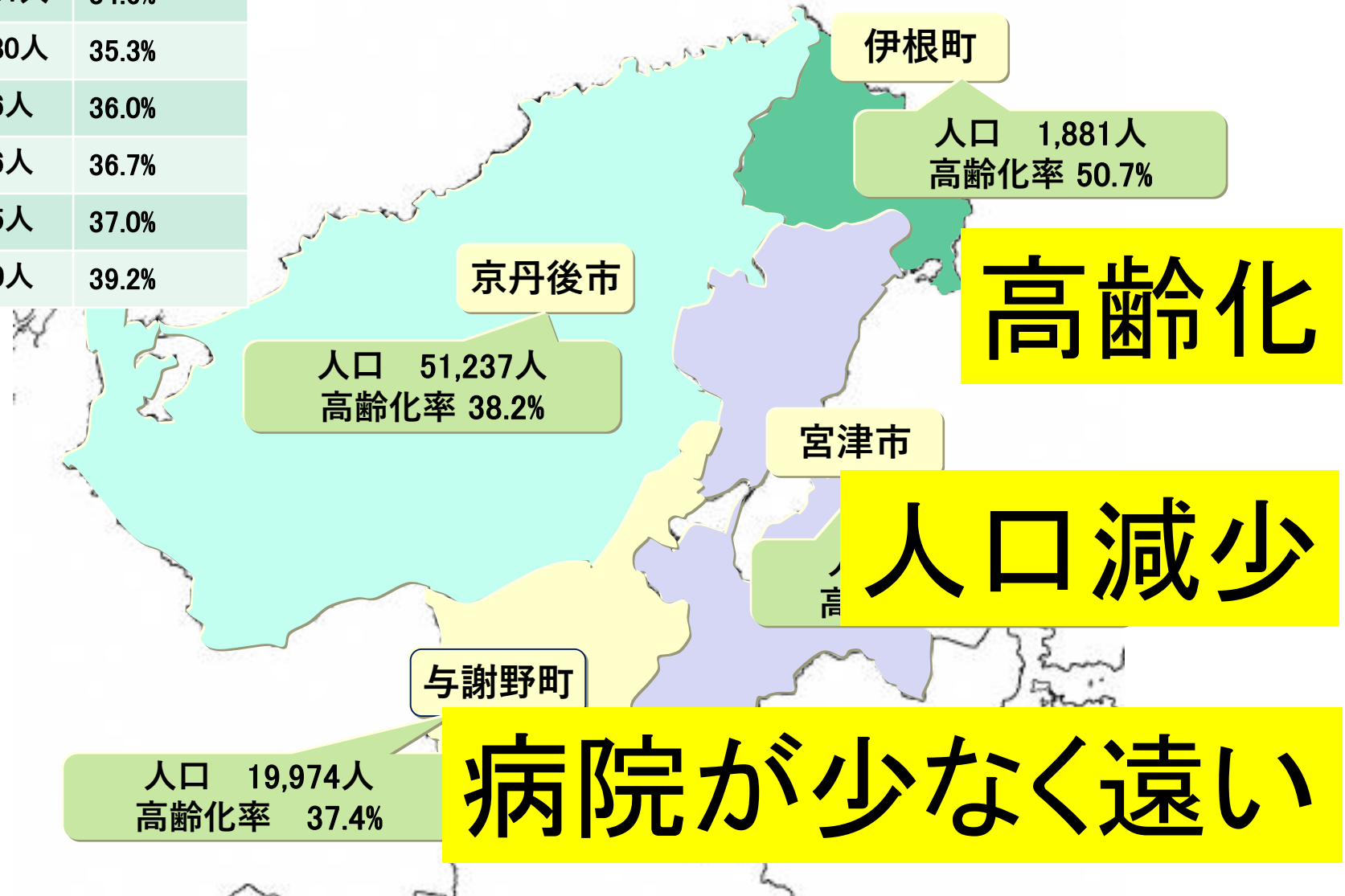
北部医療センターでは、附属病院化以降、

「北部医療センターの整備に係る基本構想（平成25年）」及び  
「東京都安心医療拠点整備検討会提言（平成28年3月）」

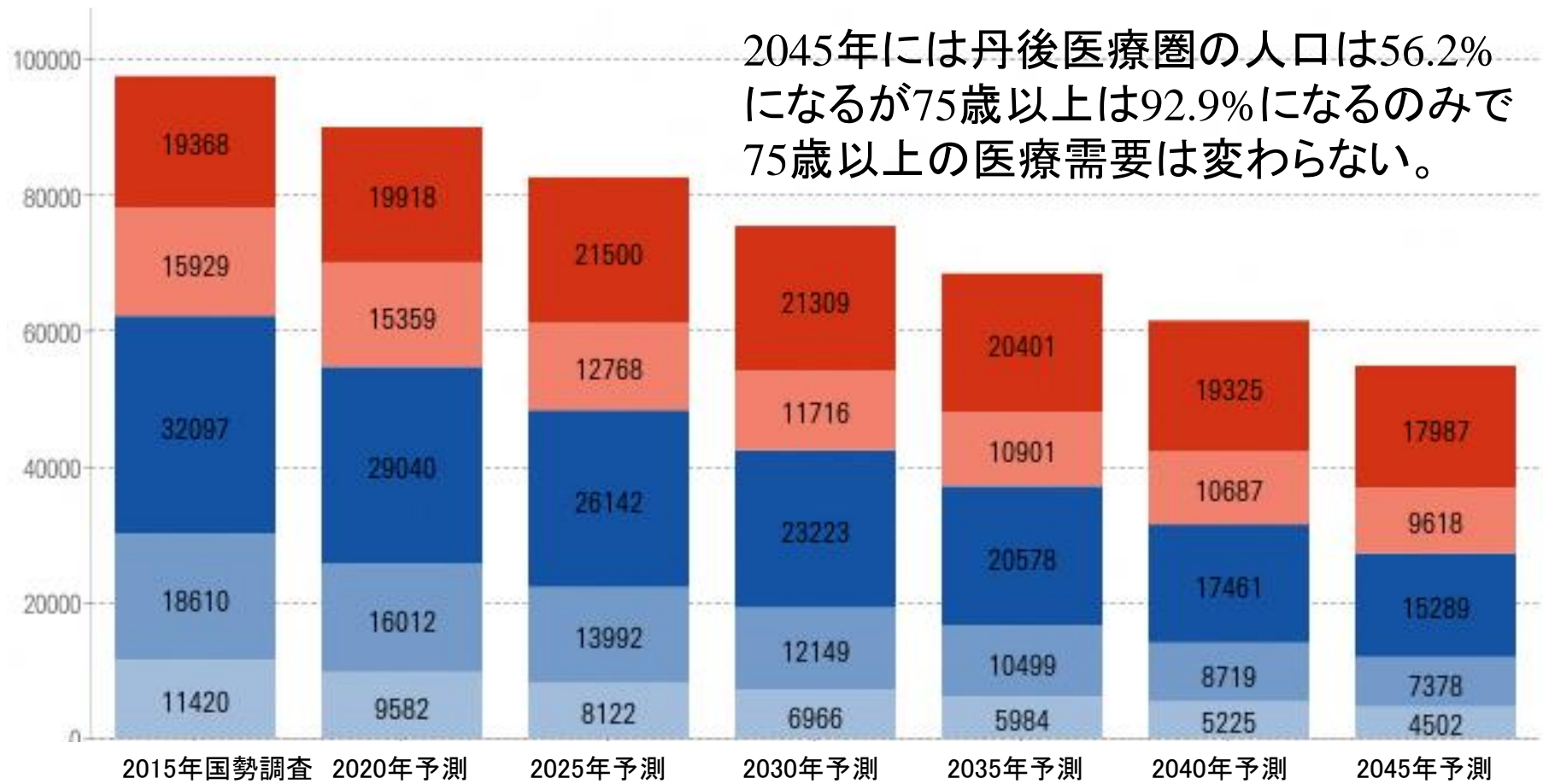
を踏まえ、機能の充実・強化や施設の整備・検討を進めてきた  
ところです。本年度は、病院機能検討会議を立ち上げ、これま  
で2回にわたり意見聴取を行いました。

# 丹後医療圏の人口/高齢化率

丹後医療圏全体	人口	65歳以上
H27年3月	102,851人	34.6%
H28年3月	101,280人	35.3%
H29年3月	99,466人	36.0%
H30年3月	99,466人	36.7%
H31年3月	96,265人	37.0%
R 2年3月	89,900人	39.2%



# 丹後医療圏の将来人口推計



■ 0~14歳

■ 15~39歳

■ 40~64歳

■ 65~74歳

■ 75歳以上

65歳以上高齢化率

36.2%

50.4%

# 北部医療の問題点

1. 高齢者の通院が困難。
2. 老々介護世帯・独居が多い。
3. 高齢者特有の合併疾患・認知症。

## 高齢者に安心安全な医療

- ・医療過誤を起こさない
  - ・医療事故が起こらない
- ・院内デイサービスの実施
  - ・リハビリテーションの強化
  - ・在宅にて暮らせる環境づくり  
(医療・介護連携システムプロジェクト)
  - ・介護サービスとの連携
  - ・医師会連携看取りシステム

地域コミュニティに戻り、元のように暮らしていけること！

京都府立医科大学附属北部医療センター  
第1回・第2回病院機能検討会議の結果について(概要)

1 日 時

- ①令和3年7月29日(木)14:00～15:30 於:北部医療センター本館3階 講堂
- ②令和3年10月5日(火)14:00～15:30 於:オンライン(Zoom)
- ③令和4年3月18日(金)14:00～16:00 (ハイブリッドにて開催予定)

## 2 主な意見

### 【整備場所】

○がん診療棟の整備にあたっては、京都府の中で相当議論し現地で整備したもの。整備場所の問題がこの検討会議で大きな問題になるとは思わない。

### 【病院機能】

○北部医療センターは大学の附属病院であり、教育・研究機能も考えていかなければならない。また、派遣される医師の居住機能も合わせて考える必要がある。

○現在、北部医療センターを核に役割分担や病院間調整を担っていただいている。北部医療センターだけのシミュレーションではなく、市立病院、民間病院も含め、丹後医療圏としてどうしていくのかを考えなければならない。

○丹後地域は広く、全ての病院機能を北部医療センターで担うことはできない。人口が減っても医療は必要であり既存の病院(弥栄、久美浜)の役割が決まらないと北部医療センターの機能も決められないのではないかと。他の病院との役割分担をしっかりと考えなければならない。

○病院機能検討会議と並行して、管内の病院や医師会が集まりそれぞれの病院が特徴を生かせるような役割分担について議論する会議を設定してもよいのではないかと。



## 【病床数】

○感染症病床数が現行と同じ4床では新しい保健医療計画に対応することができない。臨機応変に対応できる病床が必要。

○新興感染症が発生した場合どこが担うことになるのか。  
ギリギリの運用では破綻することになる。余裕をもった運用(病床数)とすべき。

○大学の附属病院、また、教育機関としての役割を考えて病床数を検討いただきたい。地域医療を学ぶのにこれほどよい病院はない。病床数を削減するのは教育機関としてどうかと思う。

○府立医科大学との連携強化、丹後医療圏域内6病院との連携、役割・機能分化を整理した上で病床数等の決定をすべき。

## 【その他】

○これから進む遠隔医療のメリットが出るのが当地である。  
遠隔医療の先進地、モデル地域になるのではないか。

○南海トラフ大地震が必ず起こる。その際、北部で医療の中核機能を担うことができるようにしていく必要がある。

○北部医療センターは、地域にとって命をつないでいく大変重要な中核病院という認識。

また人を育てるということも大変重要な地域であり、北部医療センターと看護学校の早期の建替え整備が必要。

○施設を見てもわかるように、建て増しを重ねる中で40数年が経過し大変使いづらい病院であり、患者の療養環境上もこれでいいのかと疑問を感じるが多々ある。

# 高齢者医療の問題点を克服するために

## 高齢者医療センター(仮)の新設

### \* 昭和51年建築の北病棟

- ・狭い廊下、エレベーター
- ・6人床(ベッド)部屋の存在
- ・不十分な広さのリハビリテーションスペース

# 高齢者医療の問題点を克服するために

## 高齢者医療センター(仮)の新設

- ・回復期病床
- ・医療MaaSコントロールセンター
- ・丹後生き生き長寿研究センター(認知症)
- ・十分な広さのリハビリテーションスペース
- ・透析室

の機能を備える。

# 医療MaaS(mobility as a Service)の導入



## CLOUD



## 実証実験地域



- ・医療サービスをほとんど受けていない人(移動のハードル等)
- ・保健指導対象者
- ・医療介護が必要な人
- ・保健指導が必要な人
- ・医療的な相談を受けたい人
- ...

・配車計画  
・オンライン接続計画

保健指導  
ニーズ

## マルチタスク車両(移動式保健室)



- ・オンラインでの各種サービスを実施
- ・サービスに応じて、ドライバーのみや、看護師・保健師・ケアマネージャー等も同乗する等の対応
- ・朝夕は公共交通としてマルチに活用

オンライン  
保健指導

オンライン  
診療

オンライン  
健康相談  
・受診勧奨

## 町役場

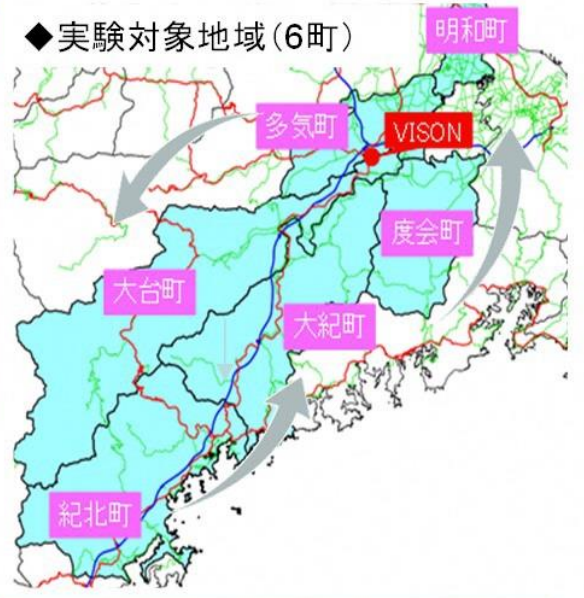


- ・保健指導対象者への指導
- ・必要に応じて、オンライン診療への誘導

## 地域の診療所



- ・出張診療に代わりオンラインで診療
- ・移動困難により受診できなかった患者も対象



## 全国7万人の専門医



- ・全国の医療ネットワークを活用し受診勧奨を実施。受診が必要な場合は、地域の医療機関を紹介

京都府立医科大学附属北部医療センターは今後益々増加する丹後医療圏の高齢者医療に全力で取り組めます！

